



問 市民病院の慢性的な赤字経営をボートレースの収益で補っていると聞いている。今後、どのように改善していくのか。

病院が赤字経営と思われるのですが、決してそういう訳ではありません。確かに26年度も12億円の繰り入れをしています。これは「法定繰入」というものです。公立の

病院では高度医療、24時間体制の救急外来など、行わなければならない診療科目があるため、これらの費用は行政が補わなければならない部分であり、市民病院が赤字かどうかの基準は、この法定繰入をした後の状態で判断します。現在は当初予算の範囲内で収まっています。

問 広域連合について、もつと時間を使って説明するべきではないのか。

他市では担当者が説明するのみですが、蒲郡市では、私から説明させていただきます。地域懇談会でお時間をいただきました。回数で比較するわけではありませんが、豊橋市8回、豊川市6回、田原市4回で蒲郡市は7回の説明会を実施しております。市職員が皆さんのところに向向いて行う「なんでも出前講座」では、昨年度から広域連合のメニューが加わっています。10人程度集まれば実施できますのでご利用ください。



問 人口減少に対して、どう考えているのか。電車で豊橋・岡崎まで10分、刈谷まで約20分、名古屋まで約40分の立地を生かせないか。

日本全体では人口が減少している中で、隣の幸田町や岡崎市は増えており、愛知県としても、少しずつですが増えています。蒲郡市に人を引き寄せるには、働く場の確保と道路整備が必要不可欠と考えています。企業誘致のため、企業用地確保にかけまわり、企業庁にも働きかけています。

現在 一昨年立ち上げた定住促進プロジェクトでは、質問者からも指摘いただいた交通アクセスのよさをはじめ、生活環境、豊かな自然など蒲郡の魅力や、情報誌・ホームページなどで発信しています。その成果もあってか、今年に入り蒲郡市の人口は転出より転入が増加しています。



定住情報誌